



消費者教育NPO法人  
お金の学校  
くまもと

消費者教育NPO法人

# お金の学校くまもと

会報・第32号 2017年合併号

〒862-0950 熊本市中央区水前寺1-6-11 セシール水前寺701号 ※住所が変わりました

TEL・FAX 096-384-4453 <http://ogk.main.jp/> Eメール: gakkou@sat.bbiq.jp

## 食べる！？食べない！？ - ハンバーグ論争から紛争解決への光明 -

徳村 美佳

我が家の長男、互助も福助人形をお手本にごあいさつをしております。緊張のせいか、表情が硬いことお許しください。

さて、私の友人の話です。夫とのコミュニケーションがよろしくなく、家族のカタチをリストラ（リストラクチュアリング(Restructuring)のこと。事業の「再構築」という意味。そのために人員整理などを指し、「解雇」を意味するように）を執行するつもりでいます。私が友人に、夫のどんなことが嫌なのかを聞いてみたところ、こんなエピソードを教えてくださいました。

ある月曜日、夫が珍しく話しかけてきて、「明後日の水曜日の晩ごはんはいらない。会社の仲間と飲むから」と言った。翌日の火曜日も、同じことを言った。当日の水曜日の朝も、「今夜、晩ごはんはいらない」と言って夫は出社した。その日の晩ごはんはハンバーグ。友人は、夫以外の分を作り、残った材料で、小さなハンバーグ6個を作っておいた。翌日、子どもたちのお弁当に小さなハンバーグを入れようとしたところ、ない！一個もない！！これは、もしかすると・・・と、夫に聞いてみたら、「食べた」という返事が・・・友人は、夫のこんなところが大大大大嫌い~~~~~とっています。私も、こんな夫だったら、うまくいかんやろなあと思います。

で、私の周りのひとたちに「こんな場合、ハンバーグ食べる？」と聞いてみました。私は当初、絶対に食べない派が大多数を占めると予想していました。だって、自分から、当日の晩ごはんはいらないうって言っていたのだから。食べるにしても、ひと声かけろって思います。ところが、案外、食べる派がいました。あるひとは、こう答えました。「食べます。だって、晩ごはんが済んだ後に残っているから、食べても問題はない。おなか減っていたら食べます」。で、気づきました。人間には2つのタイプがあると。小さなハンバーグを作った相手の気持ちや状況を考える「相手軸タイプ」と、自分のおなかの具合を考える「自分軸タイプ」。ハンバーグを食べるか食べないか、どちらが正解ということはない。ただ、考え方が大きく違うだけ。それを知っているだけでかなりの紛争は回避できるし、解決に向かうヒントが見つかるのではないかと。

私だったら、食べちゃう夫とわかっていれば、

「食べるな危険！」というメモを貼っておきます。

みなさん、これから誰かと協働作業を行う前に、このハンバーグ問題を  
出題してみることをおすすめします。



こんな活動してます！

平成29年度熊本県市町村等自殺対策推進事業補助金事業  
生活者の視点に立った相談体制の構築と  
社会資源（困ったときに頼ることのできる場所やひと）の  
整備・充実化のための研修会

2017年12月16日（土）尚絅大学九品寺キャンパスにて、上記研修会を開催しました。家計管理支援では、当事者自らがふだんの消費生活や身の回りの生活環境を見直し、問題に気づき、その解決の方向を考えていくプロセスが重要です。今回のフォローアップ研修では、依存症という切り口から生活困窮者支援の検討を行い、より実効的なアプローチや支援の方法の構築・習得を目指しました。

### ◎第1部の様子

第1部では、横浜市のギャンブル依存アセスメント支援施設「認定NPO法人ワンデーポート」理事 稲村厚（いなむら あつし）司法書士をお招きし「ギャンブル依存症の支援方法について考えてみよう」をテーマにお話いただきました。



### ◎予習&宿題

今回の研修では、お金の学校くまもとメンバーに、事前に稲村司法書士の著書「ギャンブル依存と生きる」（彩流社、2016年）を読んで予習（宿題）をし、事前に質問をしていました。

### 【宿題（質問）】

『家族はどんなスキルを身につければ自分を守れるのでしょうか？』

『・くらし・よか・しごとの優先順位をつける場合、くらしを支えるための収入として就労支援を先に考えてしまいます。くらしを安定させ、環境を整備する間の生活費は、家族の収入や貯えがない場合、生活保護という考え方になるのでしょうか。』

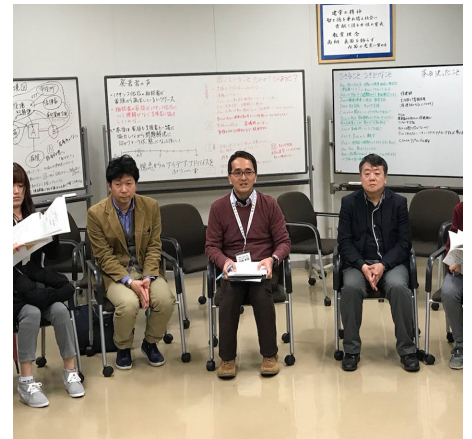
『普通の生活、普通の性格とは、どんなものを言うのでしょうか？社会適応に問題があるというのは、どんなことをいうのでしょうか？』

『ギャンブル依存症の方の中には、銀行や知人へ借金しているだけでなく、税金等を滞納している人もいます。行政と連携するうえでのご苦労や、うまく連携するための工夫等があればお聞かせください。』

## ◎第2部



児玉さん、この部分にひとことお願いします！



## ◎第3部

川崎さん、この部分にひとことお願いします！

NPO 法人お金の学校くまもと 2017年12月16日(土) 研修会に参加して  
「お金の問題は、日常生活のストレスチェックが肝心」 仮

稲村 厚(司法書士、NPO 法人ワンダーポート理事長)

この度は、研修会の講演者としてお招きいただき大変感謝しております。グループ・集団という人の集まりで、一番大切なのは自由で支援的な雰囲気だと思います。当日は、そのような雰囲気の中で過ごすことができました。このことが、「くまもと」の皆様が、クライアントを主体とした丁寧な支援を続けていらっしゃる証左でしょう。

さて、私はこの日、ギャンブル等浪費癖の方に対する支援方法について、お話しさせていただきました。ギャンブルや買物で何度も借金を作ると、「依存症」と解釈され治療を優先する方法論をとることが多いと思われます。この方法は、もともとアルコール・薬物といった「物的依存」に用いられる方法論で、身体的な健康を優先する意味を持っています。しかし、浪費癖のような「プロセス依存」においては、直接身体的な健康を損ねるものではないため、必ずしもこのような方法論を取る必要はないと考えております。

私のとっている方法論は、浪費癖を社会不適合の一形態と捉えなおし、生活環境の調整と健康的なストレス解消方法の獲得を目標におくやり方です。したがって、相談者がどのような人であるかを理解することが最も大切になります。生育や日常生活・交友関係などを丁寧にお聴きすること、また、ギャンブル依存の場合、いつどのようにやっているか、表面化する借金の額やその頻度なども今後の支援に関して重要なヒントになります。何度も借金を繰り返し、その都度家族から叱責を受けている人も多く、自己肯定感が低下している例も珍しくありません。私は、本人の考えているプランをお聴きし、それに修正を加える形で具体的な支援プランを組み立てていきます。本人の考えを中心に置くことで本人の自己肯定感を高める狙いがありますし、自分の決めたことですから実効性も高まります。これは、お金の問題をきっかけにして相談者の生活全般の支援につなげていく「お金の学校くまもと」の方法論と同じだと感じております。

午後の事例検討では、本人中心の支援と共通の哲学を持つPCAGIP 事例検討法を応用し、なおかつ具体的な支援のアイデアに導く「くまもと方式」と呼ぶべき、大変有意義な場に参加できました。この方法は、全国の困窮者支援の現場に広がってほしいと思います。

お招きいただいた私にとって、学びの多いそして元気と勇気を与えられた研修会でした。物理的には遠く離れていても、「くまもと」の皆さんとは心が通じ合っていると信じて今日も相談に応じています。これからもお付き合いください。また、私ができることでしたら気楽にご連絡頂けると幸いです。

